

令和2年度
第4回大野市総合教育会議
会議録

日 時：令和2年11月2日（月）午後4時30分～5時35分

場 所：大野市役所 大会議室

大野市総合教育会議

日時：令和2年11月2日（月）

午後4時30分～

場所：大会議室

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第1項に基づく職務権限の特例について

(2) その他

大野市総合教育会議出席者名簿

	役 職	氏 名
1	市長	石 山 志 保
2	教育長	久 保 俊 岳
3	教育委員 (教育長職務代理者)	馬 道 保
4	教育委員	松 谷 由 美
5	教育委員	松 田 輝 治
6	教育委員	羽 生 た ま き

(事務局)

1	企画総務部長	川 端 秀 和
2	総務課長	加 藤 嘉 一
3	政策局長	真 田 正 幸
4	総合政策課長	加 藤 智 恵
5	教育委員会事務局長	清 水 啓 司
6	教育総務課長	横 田 晃 弘
7	学校教育審議監	千 田 佐
8	生涯学習課長	横 井 一 博
9	スポーツ振興室長	多 田 直 人
10	文化財課長	佐々木伸治
11	教育総務課企画主査	竹 田 雄 次

< 傍聴者 >

0 人

1 開会

【教育総務課長】ただ今から、本年度第4回の大野市総合教育会議を開会する。

2 市長あいさつ

【市長】お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。また、日ごろは、子どもたちの教育環境の充実、生涯学習の推進、文化・スポーツの振興といった点多大なるご尽力を賜り感謝申し上げます。

あらためて総合教育会議の趣旨を申し上げますと、同じ大野市ではあるが、市長部局と教育委員会は、それぞれの役割を分担して任務を担っている。話し合いにより方向性を一つにして、それぞれの場所で役割を果たしていけるように協議を行う場が総合教育会議である。

今年6月に第六次大野市総合計画の基本構想が定まった。これは、行政だけではなく、市民や地域団体、企業を巻き込んだ将来像を定めたものである。この将来像に向けて来年度から取り組んでいくことになる。本日は、市長部局で担うこと、教育委員会で担うことが、どうすればより良くなっていくかという観点で議論したいので、よろしく願います。

3 協議事項

【市長】「(1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第1項に基づく職務権限の特例について」を議題とする。事務局の説明をお願いします。

——<企画総務部長説明>——

【市長】ご意見等があればお願いします。

【松田委員】第六次大野市総合計画の基本構想は、将来の大野市のビジョンを描いたものであり、計画を立てて実行していくことは重要である。

まず、公民館業務についてであるが、これまで社会教育の拠点であった公民館が市長部局に移るということである。この10年程の流れを見ると、課名が社会教育課から生涯学習課に変わり、人を集めて行う家庭教育学級や女性学級、成人学級といったものがなくなり、個人の生涯学習に重点が移ってきたように感じる。公民館が市長部局の所管になることで、広い観点から市民の皆様に地域づくりの勉強をしていただくということになり、よいことだと思う。ただ、現在の公民館の職員体制を見ると、このままの体制で市長部局に移管しても、「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」の実現が十分にできるのかという疑問がある。未来を描ける人づくりを行うのであれば、抜本的に公民館の在り方、つまり、名称や旧町村単位を基本とするエリア区分まで踏み込んで見直していけるとよいと思う。

文化については、越前大野城などの博物館も市長部局に移管されるのかと思っている。私自身は以前から、大野市が持つ観光施設という観点でとらえて、市長

部局の観光や産業の分野で所管し、より多くの方に見ていただければと思っていた。例えば、本願清水イトヨの里は、単一の生物の博物館としては世界でも稀な博物館であるらしい。そういうことを発信していくことが大事だと思う。

スポーツ振興に関しては、市民の健康づくりと連携して進めることで、底辺の拡大や強化が期待される。学校の部活動についても、民間の活動の中で受け皿づくりができるようになるとういと思う。

保育所については福祉的な性格が強く、教育委員会が所管することに少し違和感があるが、これから煮詰めて進めていければと思う。

【市長】越前大野城、武家屋敷旧内山家、武家屋敷旧田村家、和泉郷土資料館、笛資料館、本願清水イトヨの里については、設置は教育委員会だが、管理運営については、平成30年度から市長部局に委任されている。博物館は観光振興室、イトヨの里は湧水再生対策室が担当し、より多くの方に見ていただくための工夫がしやすくなっている。こういった経験を生かし、教育的な観点も大切にしながら移管を進めていきたいと考えている。

【松田委員】ある団体に入っていたときに、突然、施設の所管が変わり戸惑ったことがある。例えば、公民館であれば公民館運営審議会があり、生涯学習課であれば社会教育委員の会がある。「みんなで一緒によりよい大野にしていくために市はこうしていきたい」ということを事前にお知らせし、そういった方々の理解を得ておいた方がよいと思う。

【市長】大切なことだと思う。そのために、6月に第六次大野市総合計画の基本構想を定め、実行するための検討を行い、本日のような機会を設けてすり合わせを行っている。その意味でも、本日の会議は大切な会議である。一方で、基本構想は、こうした方向に進みたいという市民の思いに基づいたものであり、どうすればうまく進むかという観点で前向きにご意見をいただきたい。

【松田委員】内部だけではなく外部ともキャッチボールをしておかないと、分からない部分が出てくると思う。

【市長】教育委員会の施設も多く、本日の協議が整えば、教育委員会として動いていただくことも出てくるのでよろしく願います。

【事務局長】公民館運営審議会について、念のため申し上げる。平成12年に地方分権一括法が出され、公民館運営審議会の必置規制が廃止された。これを受けて大野市では公民館運営審議会を置かないこととしたため、現在、公民館運営審議会は設置していない。

【馬道委員】子育て、保育所を市長部局から教育委員会へ移管するという件について、教育長は「未就学から高等教育までの18年間の一貫した教育システム作りに取り組みたい」と話しているので、保育所や児童館などの施設が教育委員会の所管になることはよいと思う。

学校で児童虐待の対応をした経験から言うと、学校、福祉こども課、児童相談所が連携して対応することが必要であり、教育と子どもが同じ教育委員会の所管になると対応もよりスムーズになると思う。

公民館については、スポーツ振興の面では地区体育大会の実施、福祉面では敬老会の実施や社会福祉協議会との連携、文化・教育面ではふるさと学習への協力や夏まつりの実施など様々な活動を行っている。学校とのつながりが強く、地区の夏まつりに中学生の意見が取り入れられたり、当日の運営に中学生が参加したりしている。小学生も地区の夏まつりで発表を行っている。ふるさと芸能発表会では、いくつかの地区で公民館を通じて指導者を紹介してもらった。また、今年の夏休みには、中学生の学習場所として公民館を開放してもらった。放課後子ども教室も公民館で実施しており、子どもの教育とのつながりがとても強い。公民館が市長部局に移管されても、これまでの学校と公民館のつながりが切れないようにお願いしたい。

【松谷委員】私は「ずっと住み続けたい」という言葉に着眼して申し上げる。文化・芸術面では、先にハードを仕上げるのではなく、ソフトを仕上げてからハードに移るとよいと思う。例えば、文化会館については、文化・芸術振興のための市民を交えた実行委員会を立ち上げ、どういうことを大野市民でつくり上げたいかという構想を練ってから、建物を建てる構想に入るとよいと思う。

スポーツ活動については、これまで教育の観点が強かったと思うが、長寿のまちにしていくために、市民の声を取り入れたスポーツ活動をつくり上げていくとよいと思う。

色々な分野で市民参加型の実行委員会を立ち上げ、行政に市民の意見を多く取り込んでいけば、市民は大野に住み続けたいという気持ちになると思うので、そのような政策をとってもらいたいと思う。

子育てについては、18年教育を考える前に、現状では子どもを産む決断をすることがとても難しいと思う。私が子どもを産んだときには、すでに市内に産院がなかった。市内で出産できないことはマイナスだと思うが、産院がないまちでも子どもを産んできちんと子育てができるという大野市の18年教育のビジョンが必要だと思う。どうやって学力や自信をつけさせるのか、性格面では「進取の気象を育てた明倫の心」という言葉にあるように、どういう気象の子どもを育てるかということにも着眼して18年教育をつくり上げてほしい。18年教育には、市内に高等学校があるということも重要だと思うので、そのことも考慮してほしいと思う。

住み続けたい持続可能なまちにするために、市民密着型の市民の意見を聞く政策であってほしいと思う。

【羽生委員】学校再編問題が市民を巻き込んで大きな局面を迎えている中で、令和3年度に大きな機構改革が行われることは、市民としてはとても不安に感じると思う。

私個人としては、子ども、保育所、児童館などの業務を教育委員会に移管することについては、子どもを見守り、育てることを一元化するという観点から、よいイメージで受け取ることができる。しかし、この機構改革によって色々な余波が出てくると思う。例えば、学校再編検討委員会でも議題に上がっている放課後子ども教室について、公民館が市長部局に移ることで、放課後子ども教室の会場はどうなるのかという意見が出てくると思う。来年4月の機構改革を目指す中で職員が慌ただしくなり、一生懸命に学校再編に取り組んでいる再編検討委員会や市民の皆様を置き去りにするようなことがないよう、また、学校再編の局面を取りこぼすことがない形で進めていくのがよいと思う。

公民館や文化振興の業務を市長部局に移すことの具体的な目的が分かりにくいですが、どういったメリットがあるのか教えてもらいたい。

【教育長】現在、教育委員会では、学校再編や生涯学習、教育大綱の改訂など色々な検討を進めている。そのような中で大野市が目指す教育像を明確にしていかなければならない。第六次大野市総合計画と合わせて教育像をしっかりと見つめていきたいと考えている。未就学の子どもに関することが教育委員会に移管されることについては、私は20年前に4年間、教育委員会の学校教育課で働いていた時に、幼・保・小・中の連携に取り組んでいた。この幼・保・小・中の連携が、ようやく第六次大野市総合計画に反映されたことは、私にとっては大変ありがたいことである。先ほど、幼稚園、保育所の園長と小学校の校長に集ってもらい、第1回の連絡協議会を開催した。今までは幼稚園、保育所の年長組の担当者と小学校1, 2年の担任に集ってもらっていたが、今年からはトップに集ってもらって意見交換をしてもらうこととした。このタイミングで総合教育会議を招集してもらい、市長には感謝申し上げる。

【市長】私は就任したときから、大野市の最大の課題は人口減少に対応していくことだと申し上げている。人口減少対策には大きく二つの施策があり、人口を増やす施策と人口が減少しても対応できるようにする施策である。これまでの行政は、人口を増やす施策について一生懸命に取り組んできたが、現実には日本全国で人口が減少している。人口を増やすという施策は大事にしながらも、人口が減少しても支え合って大野に住み続けられる施策というものを考えなければならない。

この二つの命題を考え、かつ、市民の方々が一生懸命に意見を積み上げて出してくださったのが第六次大野市総合基本計画の基本構想である。市民の方々が考えてくださった大野市の将来像をなんとか形にしていきたい。そう考えると、現在の体制から少しずつでも変えていかなければ対応できないのではないかという考えから、本日の提案をさせてもらった。

基本構想の基本目標分野については、教育委員会にとっては「こども」が最も関りの深い分野である。先ほどから皆様のご意見を聞いていると、体制としての不安はあるとしても、未就学児から高校生までの18年のつながりの中で教育を考えられるとよいのではないかという思いを確認できた。また、児童虐待については、現在の体制では突っ込んだ議論をしにくいことが、もう少しやりやすくなるのではないかと期待している。

「健幸福祉」の分野については、現在、市の人口の36%が高齢者であり、体を動かしたりスポーツをしたりすることで、ずっと元気にお過ごしいただくということを考えて、福祉とスポーツの連携が必要だと考えている。

「地域づくり」の分野に公民館が入ってきたことについては、公民館は生涯学習や社会教育といった人づくりを中心に、学校との関わりや老人会との関わり、体育大会や福祉会合の開催など、地域でのふれあい交流の場になってきた。避難所としても活用されており、区長会やよくする会などの団体事務も担うなど、すでに地域づくりの拠点としての役割を担ってきた。今後、もう少し地域の拠点化を進めていけると、市民の皆様が思うような姿に近づくと考えている。

市民の不安を取り除くため、なるべく早い段階で市民の皆様にご情報をお伝えしていくべきというご意見については、そのとおりで考えている。

【松田委員】公民館は、旧町村単位に設置されていることで、無理が掛かっている部分があると思う。集落そのものが成り立たなくなっている地域がある中で、公民館が地域のつながりや行事を継続するための中心拠点になるような方法があるのではないかと思う。例えば、職員体制を強化し、公民館の中で地域づくりをするのではなく、住民に近い場所まで出て行って地域づくりに取り組むという方法もあるのではないかと思う。空き家が増えて地域づくりどころではない地域もある。そのような実態を踏まえて地域づくりの拠点づくりができればと思う。視点を変えることも大事だと思う。

【市長】人づくりの枠も広がっており、個人の関心が趣味の範囲から問題解決につながるようなことに広がっていくとよいと考えている。

【松田委員】結のまちを進めているのだから、一つの自治会で処理しきれないことは、お互いに助け合ったり大きい枠で考えたりできる仕組みづくりができることよい。一人暮らしのお年寄りが増えており、後10年も経つと空き家だらけになるのではないかと思う。そういった問題を教育委員会の所管として対応するのは無理が掛かる部分もあるので、市長部局の中で考えていくのも一つの案だと思う。

どうしてもしっくりこないのは、3歳以下の未就学児のことである。しっかり連携して進めていかなければならない。

【馬道委員】社会教育については、地域づくりとして市長部局の所管となるのか。図書館はどうなるのか。

【総務課長】社会教育と図書館については、従来どおり教育委員会の所管となる。

【馬道委員】博物館、公民館は、地域づくりとして市長部局の所管となるのか。

【市長】博物館の中でも、越前大野城、武家屋敷旧内山家、武家屋敷旧田村家、和泉郷土資料館、笛資料館が市長部局の所管となり、その他の博物館施設は教育委員会の所管として残る。本願清水イトヨの里も市長部局の所管となる。今後、きちんと整理していく必要があるが、現在の管理運営の体制から考えると、このような体制が活用しやすいと考える。

【松谷委員】保護者が共働きでも、安心して子どもを預けられる放課後の子どもの居場所づくりをきちんと整備し、スムーズな受け渡しができる環境にしてもらいたい。

また、GIGAスクールが始まるので、ICTを使った家庭教育と地域教育の連携を利点とした大野独自の教育を考えてほしい。また、学力も大事だが心の問題も大事だと思うので、その分野でもICTを活用してもらいたい。放課後児童クラブなどでも、教育的なことができる環境ができるとよいと思う。

【羽生委員】令和6年度からデジタル教科書の導入が見えており、ICT教育はグローバル化の中で必要なことだと思う。一方で、大野らしさを生かした情操教育といったことも並行して行う必要があると思う。市民も巻き込んで取り組んでももらいたい。

【市長】これまでは、担当部署がそれぞれに頑張り、担当部署同士がなんとか連携しようとしていたが、それを一つの部局にまとめることで、より発展的な仕事ができるようにしたいと考えている。また、これからは少数精鋭の世界に入っていくので、無駄を省き、情報のやり取りに時間をかけない体制にしていきたいと考えている。

教育に関しては、生涯学習と健幸福祉に関連して、最近、人生100年時代という言葉をよく聞くようになった。昨年、結の故郷教育シンポジウムでも、福井大学の松木先生が「人生100年時代にあっては、大学で学びが終わるのではなく、人の考え方や生き方は変わっていくので、その都度、学び直しが必要になる」とおっしゃっていた。このように考えると、人生100年時代の健幸福祉には、生涯学習というものが生きてくると思う。さらに、そのような考え方が地域づくりにも生きてくるのだと思う。

【教育長】住み続けたい結のまちを目指す第六次大野市総合計画であり、現在の第五次大野市総合計画とは変わる部分も多くある。計画の実現に向けてどのように取り組んでいくかは、教育委員会にとっても大きな課題である。市長部局としっかり連携を取りながら実現に向けて努力していきたい。

【市長】地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第1項に基づく職務権限の特例については、以上とする。

「(2) その他」について、何かあれば願います。

——<発言なし>——

【市長】

その他については以上とする。

4 閉会

【市長】 これをもって、第4回大野市総合教育会議を閉会する。

午後5時35分終了